

11月10日(日)

令和七年度

公募制自己推薦(AO型) 入学試験問題

院友子弟等特別選考入学試験問題
社会人特別選考入学試験問題

文学部 日本文学科

筆記試験

―注意事項―

- 1 問題は3ページ、解答用紙は1枚である。
- 2 解答はすべて別紙解答用紙に縦書きで記入すること。
- 3 試験時間は90分である。
- 4 試験時間中に指定の古語辞典を参照することができる。

D11A・M11A・Q11A

このページには問題はありません。

次の文章は、『平治物語』の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。なお、右衛門督（藤原信頼）は、左馬頭（源義朝）とともに挙兵したが、後白河上皇・二条天皇を味方につけた平清盛の軍勢に敗北した人物である（平治の乱）。①⑥は段落番号を表す。記述や書き抜きの設問では、句読点・記号も字数に数えるものとする。

①大宮の大路に、¹ 関の声、三か度聞こえければ、大内にも、¹ 関の声をぞ合はせける。

②紫宸殿の額の間²にあたりける右衛門督、² 気色・事柄、もつてのほか²に替はりてぞ見えし。色は草の葉のごとくなり。何の用に立つべしとも見えざりけり。

③人なみなみに、³ 馬に乗らんと立ち上がりたれども、³ 膝、振るひて、歩みもやらす。南面の階を下り煩ふ。馬の傍らに寄りけれども、⁴ 片鎧を踏みたるばかりにて、⁴ 草摺の音の聞こゆるほど、振るひ出でて、乗りえず。

④侍一人、つと寄りて、押し上げければ、⁵ 弓手へ乗り越して、まつ逆さまにどうど落ちたりけるを、侍、つと寄りて引き立てければ、顔に、⁶ 砂、ひしと付きて、鼻の先、突き欠き、血、朱に流れて、まことにおめかへりてぞ見えし。侍ども、あさましながら、をかしげに見るもあり。

⑤左馬頭、ただ一目見て、「臆してけり」と思ひければ、あまりの憎さに、物も言はざりけるが、こらへかねて、「大臆病の者、かかる大事を思ひ立ちけるよ。ただ事にあらず。大天魔の入り替はりたるを知らずして、くみして憂き名を流さん事よ」と、つぶやきつぶやき、馬、引き寄せて打ち乗り、日華門へぞ向かひける。

(中略)

⑥信頼卿は、関の声に心地損じて、⁷ さんざんの事どもにてありけるが、左馬頭、六波羅へ寄せければ、人なみなみに、その後⁸に付きて歩ませ行く。道すがら、「この大路はいづかたへ行く道ぞ。いづちへ行きてか良かりなん」と逃ぐる道を問へば、郎従ども、主の返事をばせずして、後に付きて、爪はじきをして、「これほどの大臆病の人の、かかる大事を思ひ企てられけるよ。この月ごろ、伏見にて習ひたまひし武芸は、いづかたへ失ひけるぞ。兵法を習へば、臆病になるか。あらにくや、あらにくや」と言へども、かなはず。

(注) ○大宮の大路―平安京を南北に走る大路。これより西側が大内裏。

○額の間―「紫宸殿」と書いた額を掛けてある、紫宸殿の中心。間とは柱と柱の間のこと。

○片鐙——「鐙」は馬の鞍の両脇につるして、乗り手が足を踏みかけるもの。片鐙は、その片方。

○弓手——左側。 ○おめかへりて——おじけづいて。

○日華門——紫宸殿の東南にあった門。①段落より前に義朝はもともと日華門を持ち場としていたとあり、距離の移動はあまりない。

○六波羅——平清盛ら平氏一門の邸宅のある地域。

問一 傍線部 1「関の声、三か度聞こえければ、大内にも、関の声をぞ合はせける」とあるが、どのような状況か。次の中からもつとも

適切なものをつ選び、記号で答えなさい。

ア 藤原信頼勢が関の声を三度上げたので、それを聞いた平清盛勢も関の声を上げた。

イ 藤原信頼勢が関の声を三度上げたので、それを聞いた源義朝勢も関の声を上げた。

ウ 源義朝勢が関の声を三度上げたので、それを聞いた平清盛勢も関の声を上げた。

エ 源義朝勢が関の声を三度上げたので、それを聞いた藤原信頼勢も関の声を上げた。

オ 平清盛勢が関の声を三度上げたので、それを聞いた藤原信頼勢も関の声を上げた。

問二 傍線部 2「色は草の葉のごとくなり」とあるが、誰のどのような様子を表しているか。文末は「く様子。」で結ぶこと。

問三 傍線部 3「馬に乗らんと立ち上がりたれ」とあるが、これは何をしようとしているのか。次の中からもつとも適切なものをつ選び、

記号で答えなさい。

ア 敵に向かって攻め込もうとしている。

イ 気持ちを落ち着けようとしている。

ウ 馬と心を通わせようとしている。

エ 武士の初心に返ろうとしている。

オ 逃げようとしている。

問四 傍線部 4 「片鎧を踏みたるばかりにて」とあるが、右衛門督の「右足」「左足」それぞれがどのような状況にあるのか、三五字以内で説明しなさい。

問五 ①の場面より少し前で、右衛門督の馬は「東頭ひがしがしらに引き立てたり」と語られている。傍線部 5 「弓手へ乗り越して」とあるが、馬の向きはどのように変化したと考えられるか、また右衛門督は東西南北のどの方角に落馬したと考えられるか。次の空欄に、「東」「西」「南」「北」のいずれかの漢字一字をそれぞれ補って、解答を完成させなさい。

最初は□を向いていた馬が□向きに方向を変え、□側から馬に乗ろうとした右衛門督が□側に落ちた。

問六 傍線部 6 「あさましながら、をかしげに見るもあり」を現代語訳しなさい。

問七 傍線部 7 「さんさんの事ども」とあるが、その様子をもっとも明確に語られているのはどの段落か。その段落番号で答えなさい。

問八 ①⑤段落から窺える右衛門督像と、傍線部 8 「伏見にて習ひたまひし武芸」から窺える右衛門督像は対照的であるように見える。このことについて、次の各問いに答えなさい。

- (1) 平時の右衛門督像はどのようなものであって、それが何をきっかけに、どのように変化したのかについて五〇字以内で説明しなさい。
- (2) ⑥段落には、対照的な右衛門督像の中間的な姿も語られている。その部分を二〇字以内で抜き出して答えなさい。

問九 平治の乱において、右衛門督と左馬頭の立場には多少の違いがある。どちらが首謀者で、どちらが巻き込まれた側であるか。その根拠を⑤段落の中から引用しながら、八〇字以内で説明しなさい。

問十 あなたが演出家として本文に忠実にこの場面の映画制作に関わるとした場合、④段落の「侍一人、つと寄りてくおめかへりてぞ見えし」の部分をどのように作り込むか。「押し上げ」た「侍」の手は左右どちらなのか、右衛門督の身体のどの部分を「押し上げ」たのか、右衛門督の顔のどの部分に「砂」を付けるのかを示しつつ、一二〇字以内で説明しなさい。